高齢になっても、住み慣れた住宅で暮らし続けるためには、住宅内部の環境を変える必要性が出てくる。それが住宅のバリアフリー化。
今回は、バリアフリーに配慮したリフォーム例を紹介する。

Up リフォーム

バリアフリーに配慮した部屋の増築

段差解消、手すり設置で安全 機能 快適性を備えた部屋

リフォーム後：納戸

納戸には三段の棚と照明、通風の窓を設けた

リフォーム後：室内

明るく広々とした部屋。各所に様々な工夫が。

施主の要望

築十年の木造二階建て住宅。
一人暮らしの曾父母が体調を崩し、近々同居を予定しているため、部屋を増築したい。現在は元気で介護は必要ないが、高齢のため、必要になった場合でも介護しやすいような部屋にして欲しい。トイレや収納もつくりたい。

施工のポイント

施主の住まいは夫婦と息子夫婦、孫が住む二世帯住宅。同居を予定している曾父母の部屋を増築したいということで、一階部分に2×4で部屋を増築することにした。
部屋の広さは約十畳。洗面・チウレと納戸、窓下の収納を設けた。掃除のしやすさと介護を要する際のことを考えて、床はすべてフローリングに。さらに段差のないバリアフリーにして安全性を高めた。
洗面・トイレ部分は、使い勝手のよい収納付きの洗面ユニットと温水洗浄便座を採用。車いすを使うようになった場合でも、動作に支障がないようにスペースを約二畳と広めにとり、木製の手すりを設置した。
納戸は、高さ、奥行きを十分生かせるように、三段の棚を取り付け、収納力をアップ。使う頻度の高いものは中段に納めれば、楽な姿勢で出し入れできる。
室内は明るい色調の合板で仕上げて、落ち着きと清潔感を出した。また、自然換気を促すために窓は大きく取り日当たりも良い部屋になった。
暮らす人の快適さと使いやすさ、また将来的なこともさまざまに配慮したリフォームとなった。

トイレ・洗面スペース

室内とトイレの床は段差がなくひと続きになっている。動作スペースも十分あり、使いやすい。

リフォーム前平面図　　リフォーム後平面図

リフォームの現場から

高齢の方の部屋ということで、プランの際に最も意識したのはバリアフリー化。そこで、床の段差をなくしたり、電気スイッチは車いすに腰掛けても楽に手が届くように低めに設置したりと、安全性と使い勝手にこだわった。しかし、同時に気持ちよく快適な空間であることも大切。内外装に配慮したり、トイレ、洗面の水まわりにグレードの高い設備を採用するなどして、居心地のよい部屋になった。
バリアフリーは、高齢者のみならず、家族皆が安全で快適に生活するために役立つもので、さまざまな面で取り入れたいものだ。

《DATA》

工事期間：約2ヶ月
工事費　：約350万
施工面積：約26㎡
家族構成：夫婦・息子夫婦・孫

【株式会社タイムス住宅新聞社『週刊タイムス住宅新聞』1999年1月8日掲載】